

令和4年12月23日	資料6
第15回歯科口腔保健の推進に関する専門委員会	

次期基本的事項の指標案に関する将来予測

厚生労働科学研究（地域医療基盤開発推進研究事業）
「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」最終評価と次期計画策定に
資する全国データの収集と歯科口腔保健データの動向分析 研究班

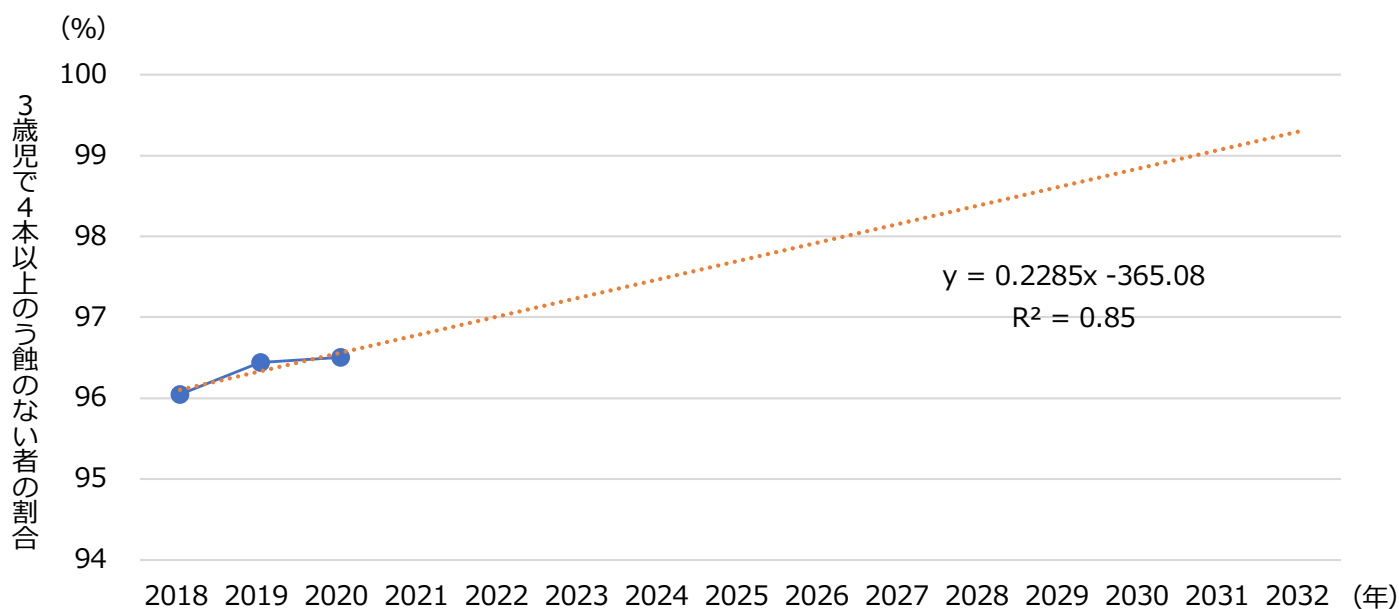
次期基本的事項の目標項目に関する 将来予測活用の方向性

- 現時点での目標項目における将来予測を行い、目標値設定の際の参考データを提示する。
- 将来予測について
 - 3時点以上の時系列データがある場合、過去の状況から回帰直線等による予測を行った。
 - データのタイプによって、予測に用いる基礎データの件数は変わるが、原則として過去20年以内の数値を用いる。
 - モデル適合は決定係数 (R^2) で判定し、その値が0.36以上の場合、将来予測値は目標値設定の目安になると考えた。

1. 口腔の健康の保持・増進に関する健康格差の縮小（告示指標）

3歳児で4本以上のう蝕のない者の割合の増加

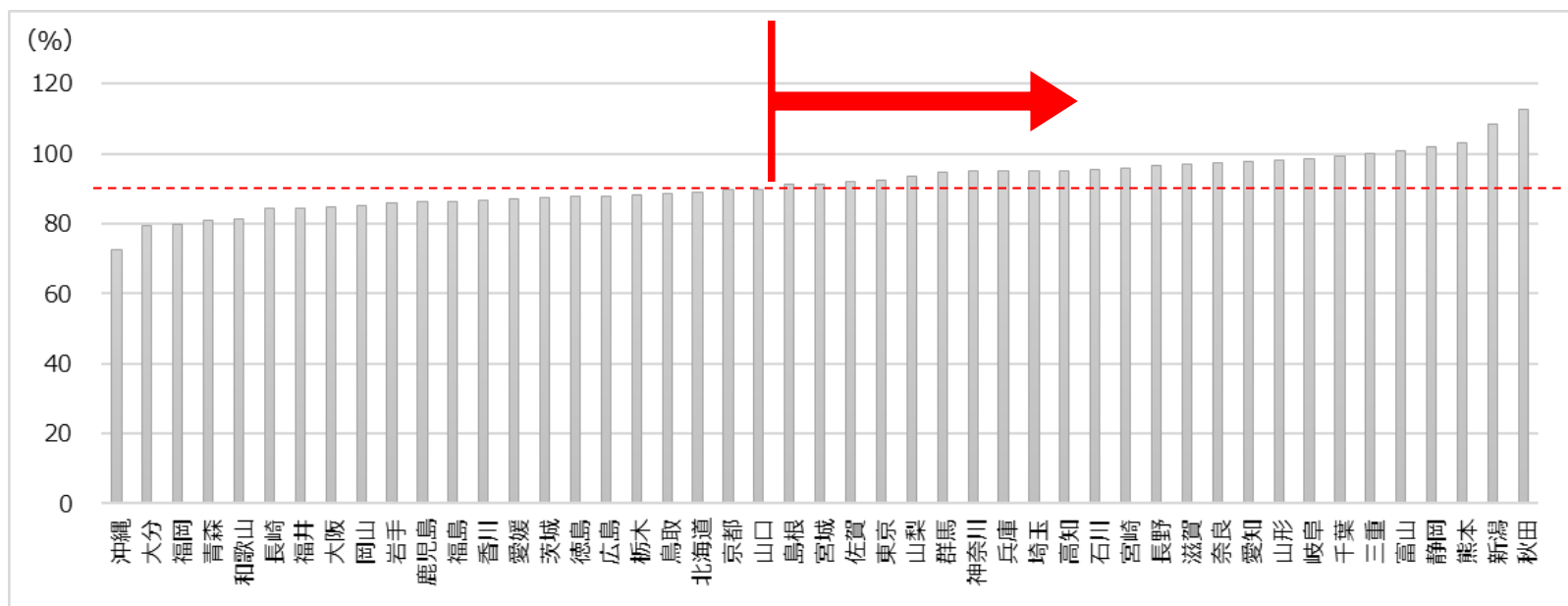
- 使用データ：地域保健・健康増進事業報告（2018年、2019年、2020年）
- 直線回帰モデルによる将来予測
- 2032年の予測値=99.3%



1. 口腔の健康の保持・増進に関する健康格差の縮小（告示指標）

12歳児でう蝕のない者の割合が90%以上の都道府県数の増加

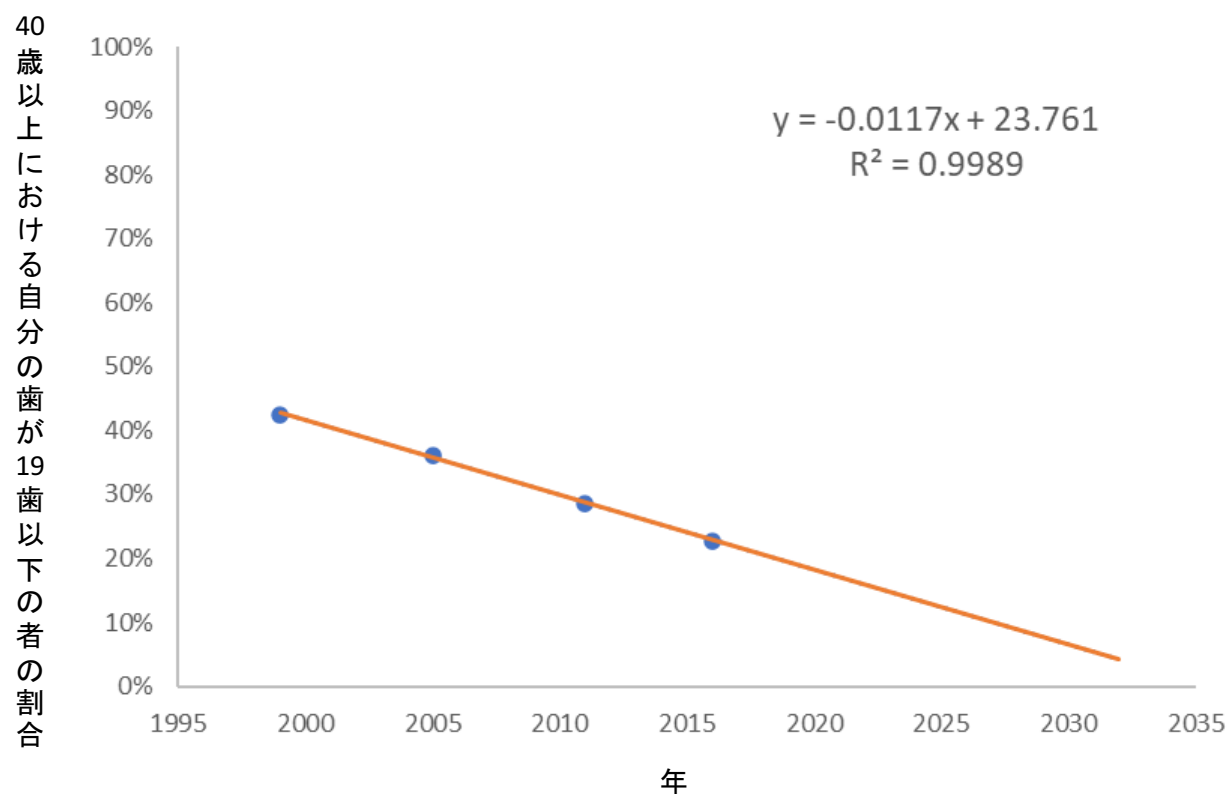
- 使用データ：学校保健統計調査（2009年～2020年）
- 直線回帰モデルによる将来予測（都道府県ごと）
- 2032年の予測値=25都道府県



1. 口腔の健康の保持・増進に関する健康格差の縮小（告示指標）

40歳以上における自分の歯が19歯以下の者の割合の減少

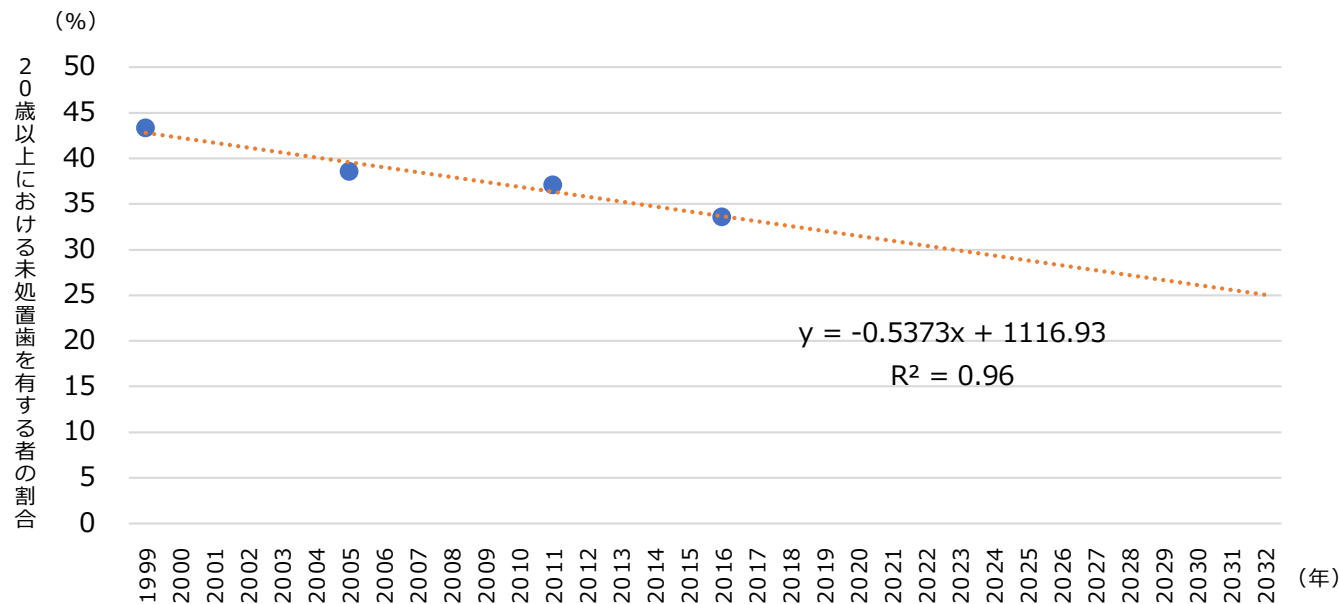
- 使用データ：歯科疾患実態調査（1999年、2005年、2011年、2016年）
- 基準人口（H27平滑化人口）による年齢調整値を使用
- 直線回帰モデルによる将来予測
- 2032年の予測値 = 4.5%



2. 歯科疾患の予防（う蝕に関する告示指標）

20歳以上における未処置歯を有する者の割合の減少

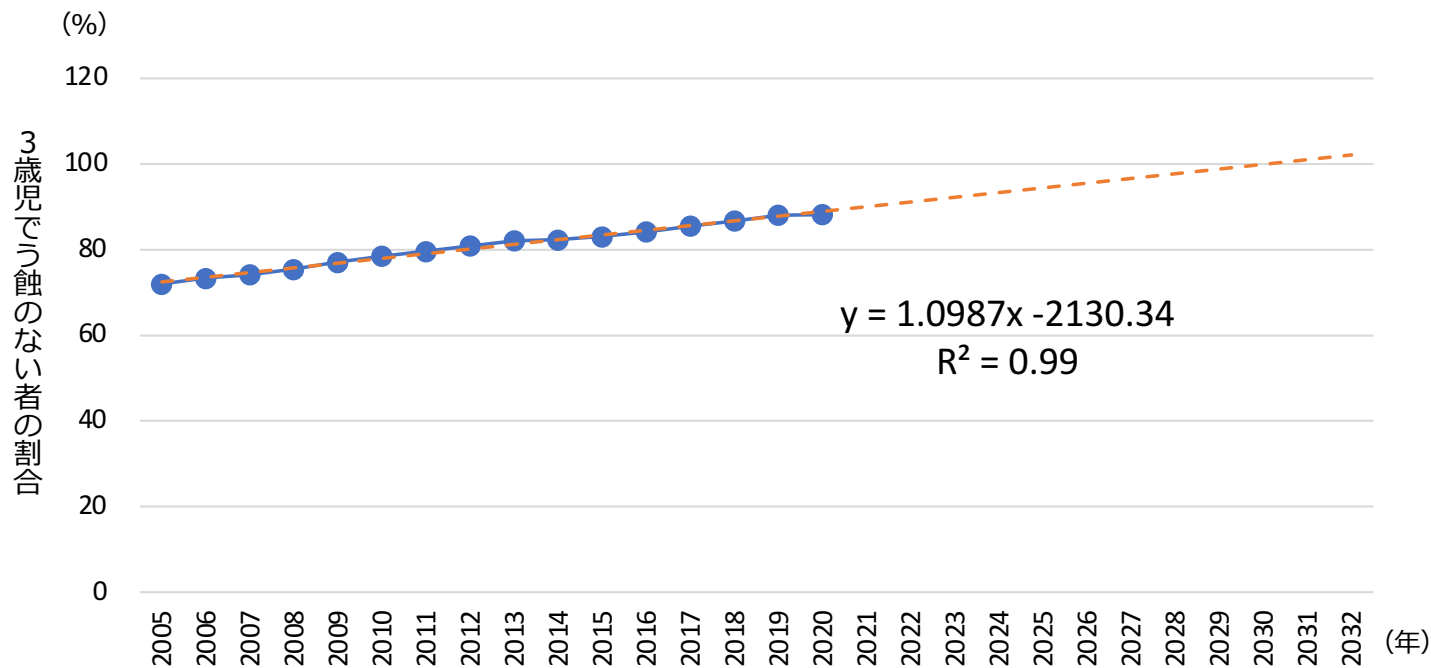
- 使用データ：歯科疾患実態調査（1999年、2005年、2011年、2016年）
- 基準人口（H27平滑化人口）による年齢調整値を使用
- 直線回帰モデルによる将来予測
- 2032年の予測値=25.1%



2. 歯科疾患の予防（う蝕に関する通知指標）

3 歳児でう蝕のない者の割合の増加

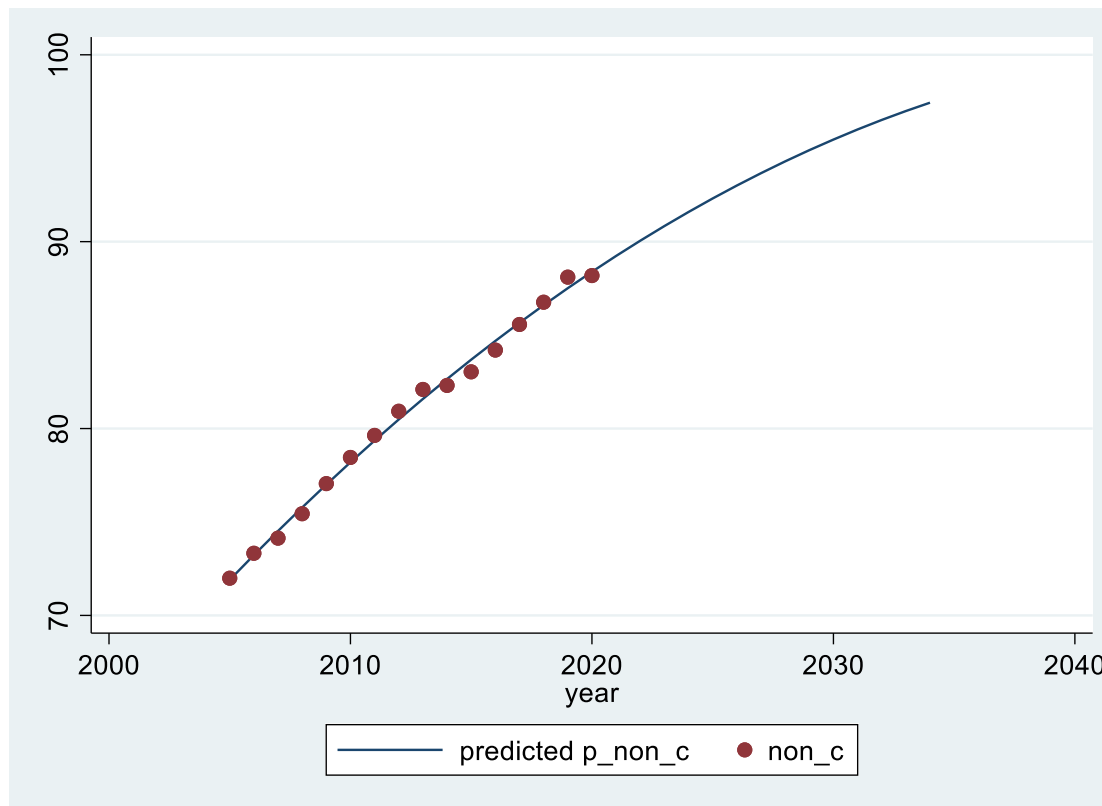
- 使用データ：地域保健・健康増進事業報告（2005年～2020年）
- 直線回帰モデルによる将来予測
- 2032年の予測値=102.1%



2. 歯科疾患の予防（う蝕に関する通知指標）

3 歳児でう蝕のない者の割合の増加【参考】

- 使用データ：地域保健・健康増進事業報告（2005年～2020年）
- フラクショナル多項式モデルによる将来予測
- 2032年の予測値=96.5%

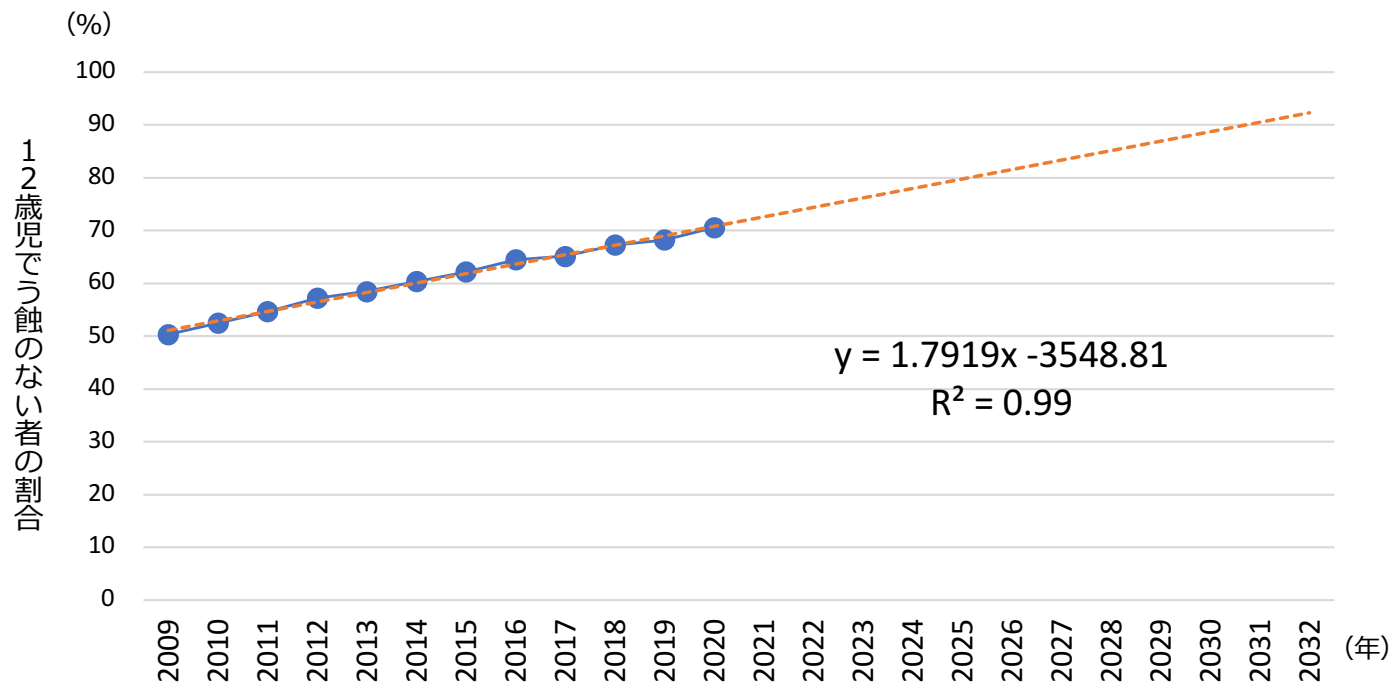


	year	p_non_c
17.	2021	89.23416
18.	2022	90.04967
19.	2023	90.83415
20.	2024	91.58769
21.	2025	92.31036
22.	2026	93.00223
23.	2027	93.66338
24.	2028	94.29388
25.	2029	94.89381
26.	2030	95.46325
27.	2031	96.00226
28.	2032	96.51093
29.	2033	96.98931
30.	2034	97.43751

2. 歯科疾患の予防（う蝕に関する通知指標）

12歳児でう蝕のない者の割合の増加

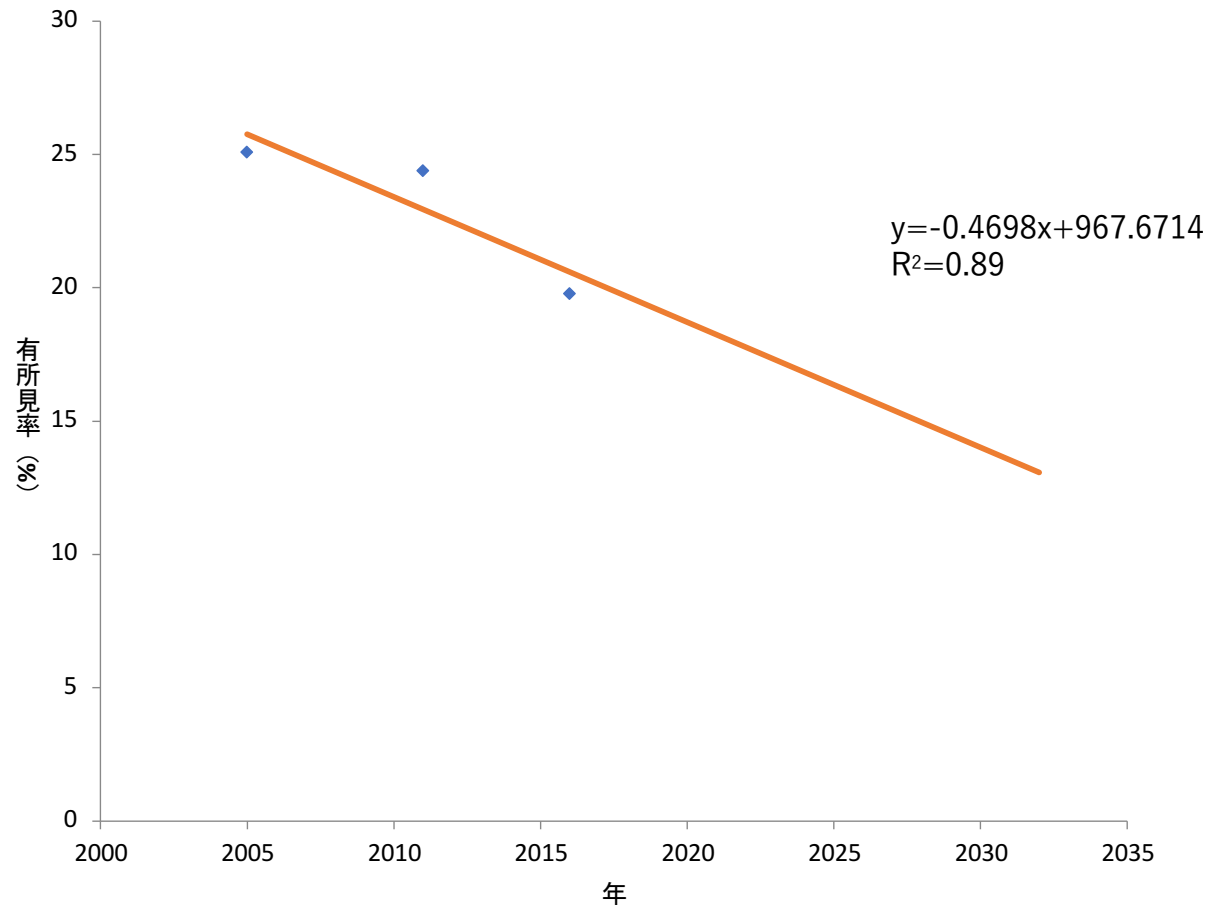
- 使用データ：学校保健統計調査（2009年～2020年）
- 直線回帰モデルによる将来予測
- 2032年の予測値=92.3%



2. 歯科疾患の予防（歯周病に関する告示指標）

中学生・高校生における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少

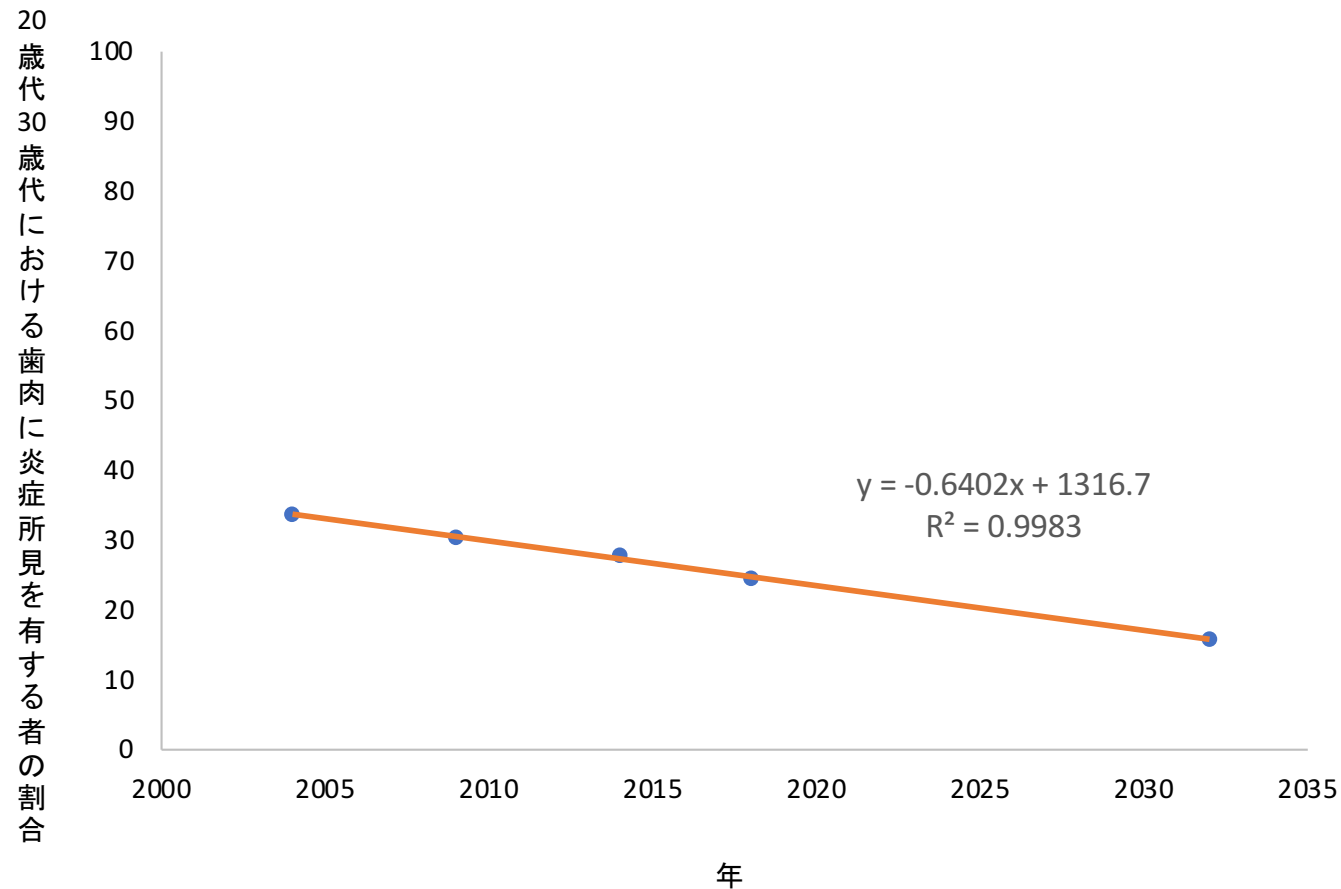
- 使用データ：歯科疾患実態調査（2005年、2011年、2016年）
- 直線回帰モデルによる将来予測
- 2032年の予測値=13.1%



2. 歯科疾患の予防（歯周病に関する告示指標）

20歳代～30歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少

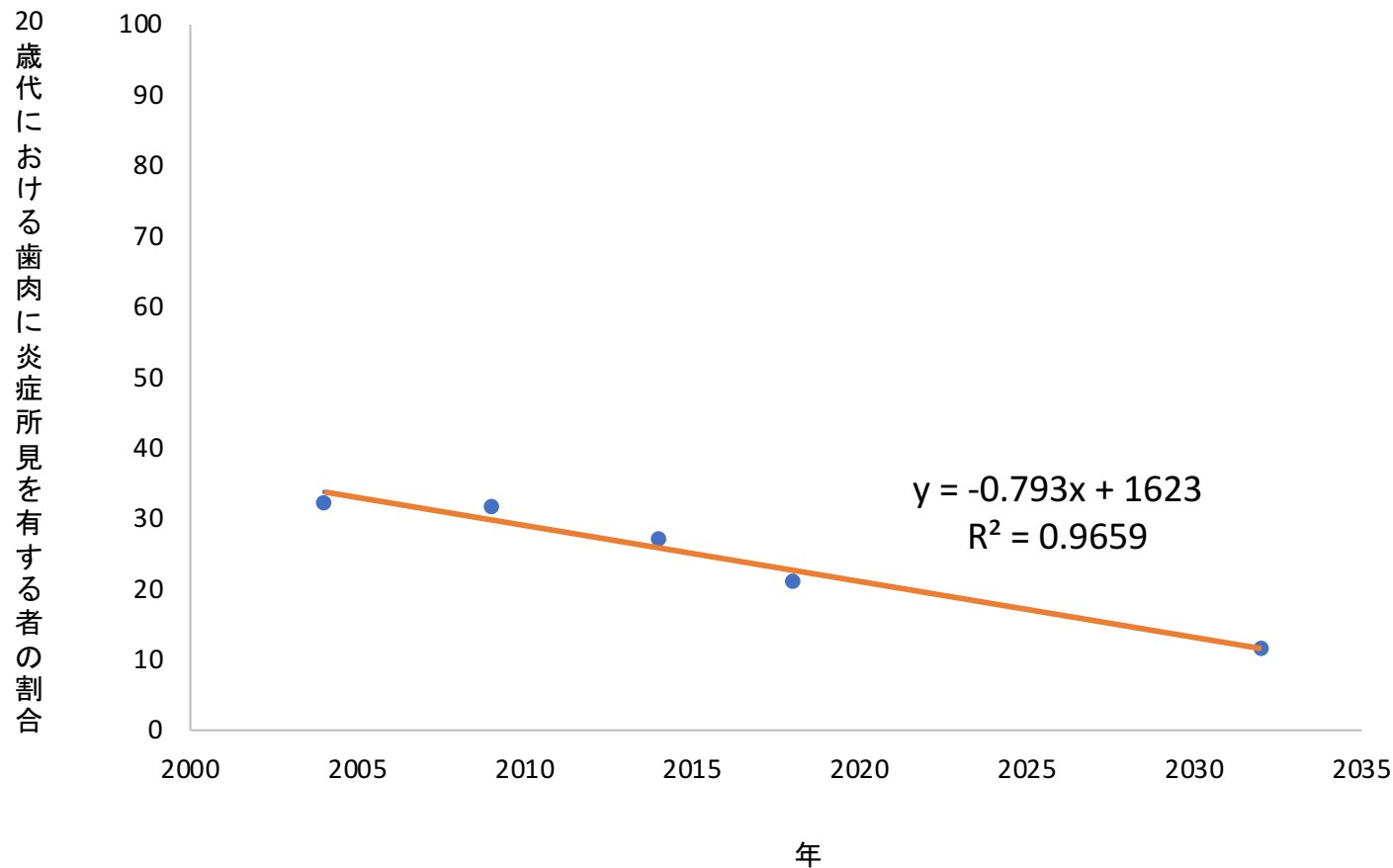
- 使用データ：国民健康・栄養調査（2004年、2009年、2014年、2018年）
- 直線回帰モデルによる将来予測
- 2032年の予測値=15.8%



2. 歯科疾患の予防（歯周病に関する通知指標）

20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少

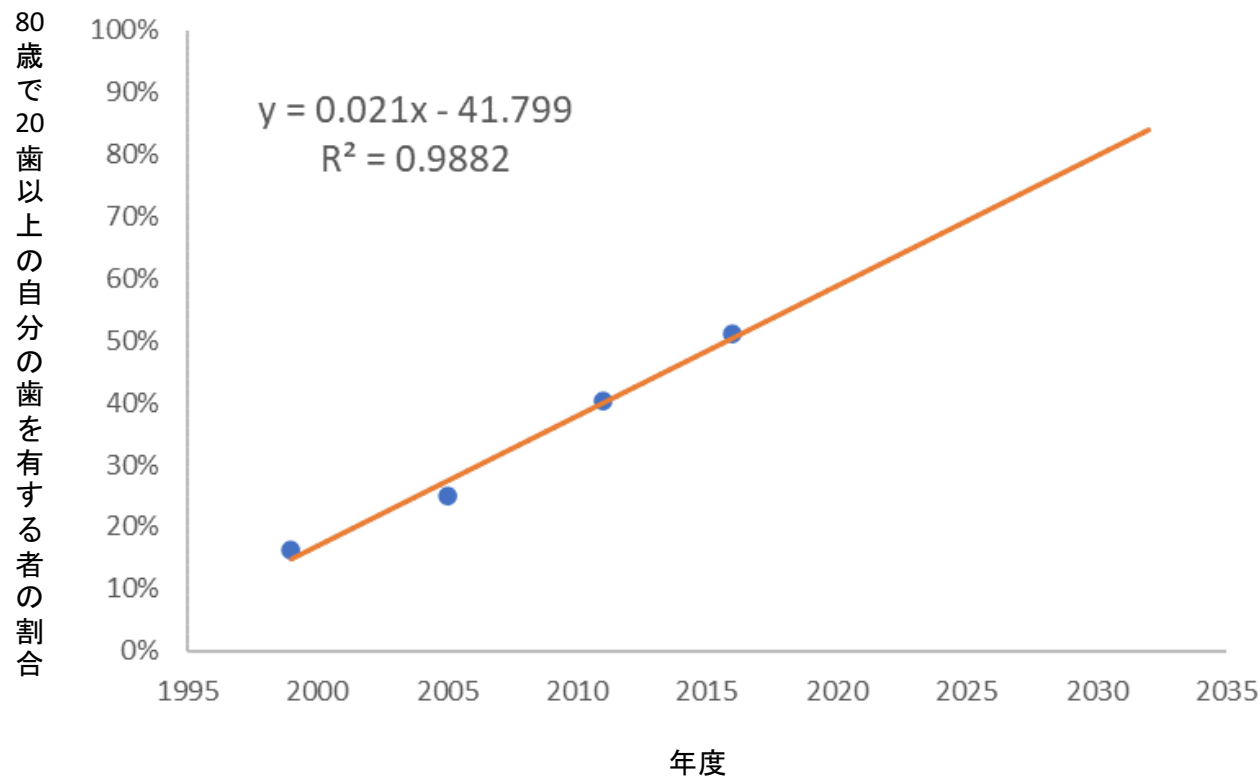
- 使用データ：国民健康・栄養調査（2004年、2009年、2014年、2018年）
- 直線回帰モデルによる将来予測
- 2032年の予測値=11.6%



2. 歯科疾患の予防（歯数に関する告示指標）

80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加

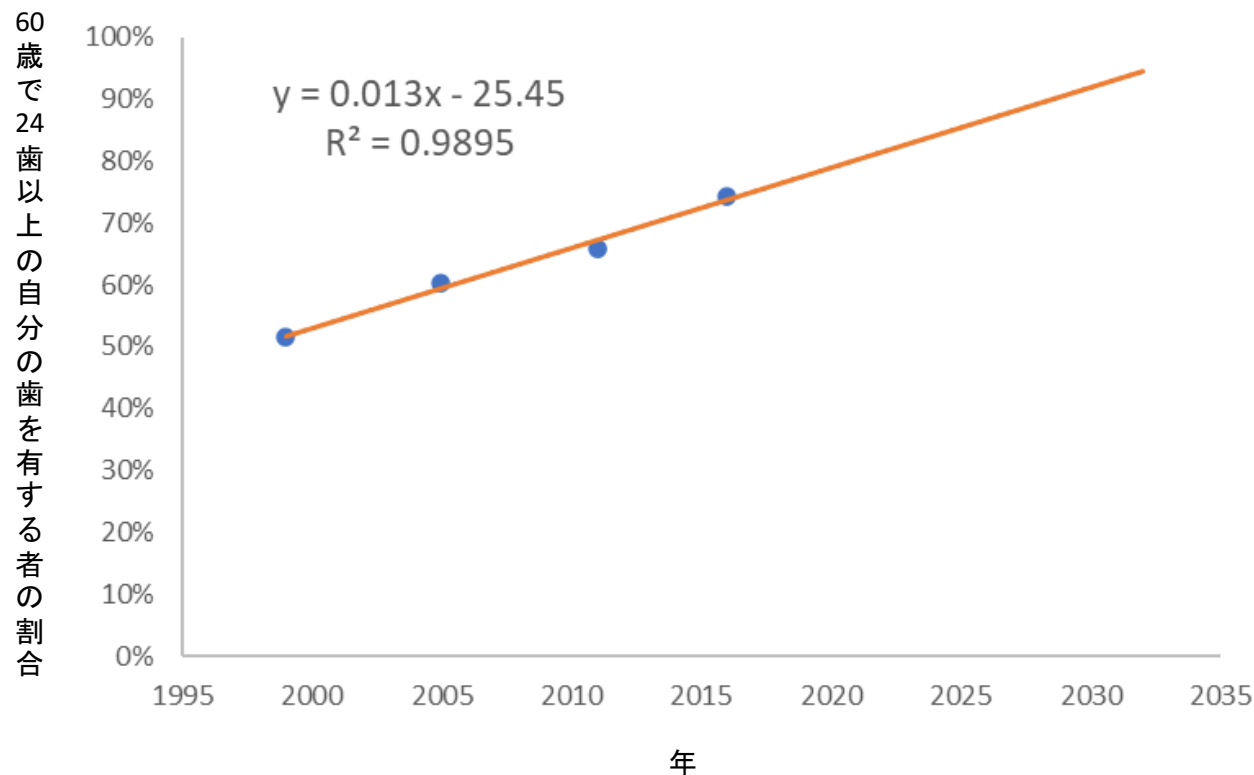
- 使用データ：歯科疾患実態調査（1999年、2005年、2011年、2016年）
- 直線回帰モデルによる将来予測
- 2032年の予測値 = 84.1%



2. 歯科疾患の予防（歯数に関する通知指標）

60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加

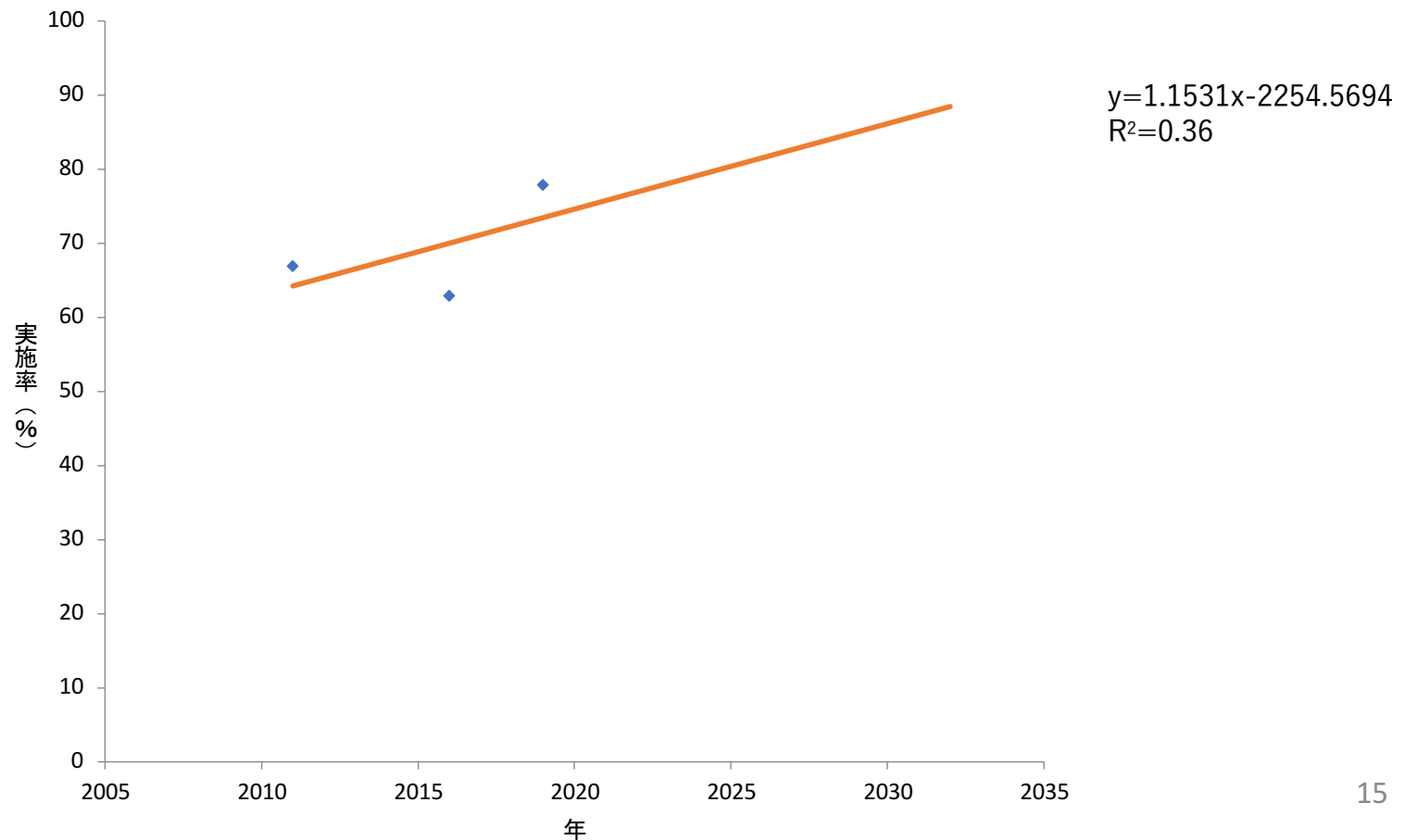
- 使用データ：歯科疾患実態調査（1999年、2005年、2011年、2016年）
- 直線回帰モデルによる将来予測
- 2032年の予測値 = 94.5%



4. 定期的に歯科検診又は歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科口腔保健（告示指標）

障害者（児）が利用する施設での定期的な歯科検診の実施率の増加

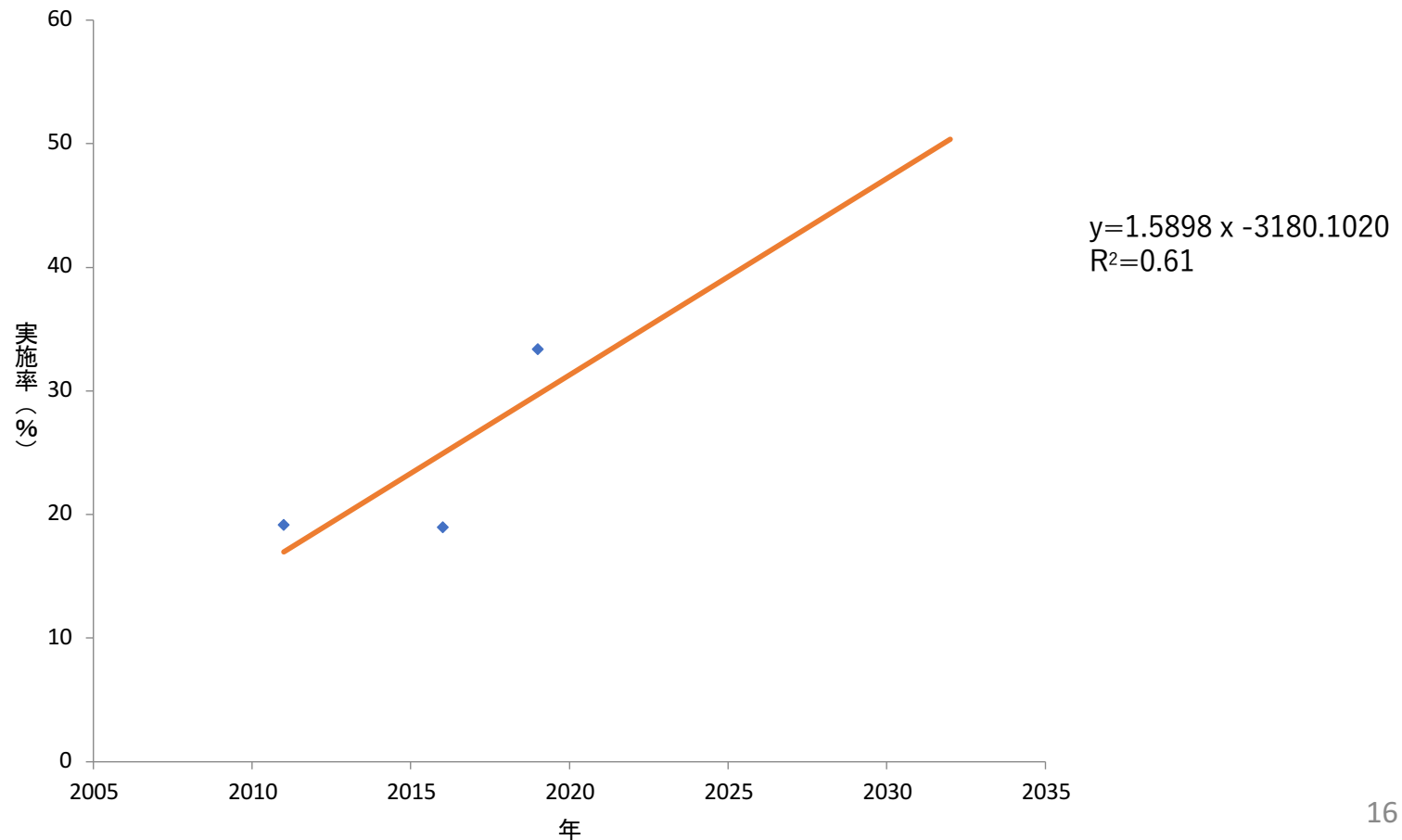
- 使用データ：厚生労働科学研究報告書（2011年、2016年、2019年）
- 直線回帰モデルによる将来予測
- 2032年の予測値=88.5%



4. 定期的に歯科検診又は歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科口腔保健（告示指標）

要介護高齢者が利用する施設での定期的な歯科検診の実施率の増加

- 使用データ：厚生労働科学研究・厚労省事業報告（2011年、2016年、2019年）
- 直線回帰モデルによる将来予測
- 2032年の予測値=50.4%



5. 歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備（告示指標）

過去1年間に歯科(検)健診を受診した者の割合の増加

- 使用データ：国民健康・栄養調査（2009年、2012年、2016年）
- 直線回帰モデルによる将来予測
- 2032年の予測値=96.3%

